

糖尿病予防の介入はリスク別に行うと効果的

糖尿病予防プログラムで行われたメトホルミンまたは生活習慣改善の介入による効果が被験者により異なるかについて、事後分析を実施し検討した。

糖尿病ではないが糖代謝異常が認められる外来患者 3,060 例を分析の対象とした。追跡期間中央値 2.8 年の間に、655 例（21%）が糖尿病に進行した。糖尿病リスク予測モデルで発症リスクについて層別化したうえで評価したところ、生活習慣改善介入による絶対リスク低下は、最高四分位群が最低四分位群より 6 倍大きかったものの、最低リスク群における効果もかなり大きかった（3 年間の絶対リスク低下 4.9% 対 28.3%；必要治療数[NNT]20.4 対 3.5）。一方、メトホルミン介入による効果は、ほとんど最高リスク群で認められ、最低リスク群では介入効果が認められなかった。最高リスク群の 3 年間の絶対リスク低下は 21%（必要治療数[NNT] 4.6）であった。

したがって、メトホルミンまたは生活習慣改善の介入による糖尿病予防プログラムにおいて、糖尿病発症リスクが高い人と低い人では介入効果が異なることが明らかとなった。この知見から、正確なリスク予測ツールに基づく決定により過剰治療を減らすことができ、より効率的・効果的で患者中心の予防治療ができる可能性が示唆された。

出典：British Medical Journal. 2015; 350: h454